



西中だより

学校教育目標

志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒

県下に誇れる西中を



桶川市立桶川西中学校
令和5年 1月10日
第11号



新年を迎えて ～始業式式辞より～

校長 磯田 輝昭

新年、明けましておめでとうございます。この挨拶をすると清々しい気持ちになります。令和五年の元旦は雲一つない晴天に恵まれ、西中生をはじめ桶川西中学校に関係ある全ての方々にとって素晴らしい一年になる予感がしました。

今年うさぎ年。うさぎ年は、芽を出した植物が成長していき茎や葉が大きくなる時期で、目に見えて大きく成長する年だと言われています。また、うさぎは飛び跳ねることから、飛躍する年という意味があるそうです。

2学期の終業式に私は皆さんにこんなお話をしました。

「新しい令和五年に自分は、「どんな人になりたいか」「そのために何をがんばるか」をよく考えて、冬休み中に新しい年の目標を決めてください。」と。今年目標は立てられたでしょうか。もし、まだ決まっていないという人がいたら今週中には決めてください。

さて、今日から3学期が始まりました。「一月は行く。二月は逃げる。三月は去る。」といわれるように3学期は、あっという間に終わってしまう1年で最も短い学期ですが、**1年間のまとめと次の学年に進級する準備を進めるととても大切な毎日**になります。

3年生にとっては、中学校卒業後の進路を決めるととても大切な学期です。自分が決めた自分の進路を実現するため、限られた時間を有効に使い、そして最大限の努力をしてください。そして3月には笑顔で桶川西中学校を巣立って行ってください。

1、2年生は、授業で、係活動で、部活動でどう取り組むかを具体的に考え、粘り強く一生懸命に取り組んでください。そして、桶川西中学校のよき伝統を発展させ、新しい伝統を作り上げて行ってください。

お正月に校長先生は、**箱根駅伝という大学生の伝統ある競技をテレビで観戦**しました。観戦する中で、こんな場面がありました。トップで走る中央大学の選手が途中で駒澤大学と青山学院の選手に抜かれてしまいました。抜く際に青山学院の選手が中央大学の選手に「ついてこい」と手で合図をしたのです。中央大学の選手は必死についていき、最後は1位でタスキを次の選手につなぐことができました。走り終えた後、中央大学と青山学院の選手は抱き合い、お互いの健闘を称え合いました。皆さんはどう感じますか。私にとって今年の箱根駅伝で最も感動する場面でした。私は青山学院の選手のこの行動を「一緒に頑張ろう」「正々堂々と戦おう」という思いであり「素直さ」「優しさ」「思いやり」「責任感」「ライバルへのリスペクト」等が凝縮した行動であったと感じました。西中生の皆さんも青山学院の選手のような**自分の内面にあるよさを磨き、人間的に成長していくこと**を願っています。

まだまだ、新型コロナウイルスの感染が収束するには、時間がかかりそうです。感染予防のための手洗い・うがい、場に応じたマスクの着用、定期的な換気、三密の回避等を引き続き、確実に行ってください。

新しい年＝2023年が西中生にとって「**大きく成長し、飛躍する年**」になることを期待しています。



2023年が桶川西中学校の生徒・保護者の皆様、そして地域の方々にとって飛躍する年となるようお祈り申し上げます。今年も子供達がよりよく成長するために、ご支援・ご協力をお願いいたします。